

園長だより

第七号一九九一年一月
竹鼻保育園
園長 川出昭順

報恩講話

報恩講によくお参りくださいました。親鸞聖人の御命日をご縁にして念仏の教えに出会っていただくことが報恩講の大切な意味です。子どもたちが正信偈のお勤めをしていられるのは誠に素晴らしいことです。われわれ大人が忘れてしまった大切なことを知らせてくれるようです。

子どもたちに「信ずる心」を育てることが重要であると言ってきました。ご両親を信ずることができると安心して暮らせます。もし信ずることができなかつたら、虐待を受けたりすると、安心の場がありません。この後どう育っていくのか想像に余



報恩講でお参りしている園児たちです。すみれ3組のクラス便りからいただきました。

りあります。愛という言葉でもいいのですが、子どもを大切に育てていく、そのお手伝いを保育園はさせてもらっています。そうして、「三つ子の魂百まで」といわれる通り、幼児期の子の心に人間として生きていくうえで最も大切な「信ずる心」が養われていきます。

大人になると厄介なことが起こってきます。「信ずる心」が不純になつていくのです。不純とは損か得かという打算の心に支配されていくことをいいます。一例ですが、結婚相手を選ぶとき、一生この人を信じて生きていくことができるか、ということよりも、年収がどれくらいあるか、背の高さがどうか、イケメンか否かなどなど。そして、結ばれて結婚しばらくはいいのですが、二人目三人目の子ができるころになると、愛という感情はどこかへ消えてしまい、お互いのことを気遣い思い合う心もなくなっていくきます。そして子育てのストレスから相手を傷つけることが始まっていきます。そうすると、あれほど愛し合っていた二人はお互いに信ずることができなくなり、さらには二人の仲を切り裂くような出来事が起こってきます。一旦、不信感を持つてしまうと引きずります。たとえば、車が一度交差点などでエンストを起こしてしまふと、またそうなるのでないかと心配が付きまといまふ。そのように不信を克服することは非常に難しいのです。

幼児期の保育「信ずる心」が育つていると少々のことばかりクリアールできるのです。心の奥底に、自分では分からないのですが、幼いころに育てられた「信ずる心」が働かないのです。大人社会は損得勘定で動いていますので、純粹な心は常に金勘定に侵されてどこかへ消えてしまいま

す。お金に人間は振り回されて「信ずる心」は人を信ずるのでなく、お金を信ずることになっていきます。そういう中でも、お金より大切なものがあるという心が眠りから覚めて芽を出すのです。「信ずる心」が回復し、人間関係が改善します。しかし、幼児期に「信ずる心」が育っていないとちよつとのことで人間関係が破綻してしまいます。

親鸞聖人の教えに尋ねていきますと次のようになります。

損得勘定は欲のことです。欲の実態は自分さえよければいいというエゴです。そのことによって、相手のことより自分を優先しますから、気に入らないときは、心ない言葉を発したり、相手を無視する行動になります。知らず知らずのうちに相手を傷つけていきます。この言葉が相手を傷つけている、この行動が傷つけているという自覚があるときは、まだ相手のことを気遣っていきますから大丈夫なのですが、無自覚の時は、お互いに疑心暗鬼になり、悪い方向へ向かっていきます。極端なことを言うとき、お互いに傷つけ合いが始まり、一緒に暮らせなくなり、ついには別れ、孤独になっていきます。そして、自分自身をも信ずることができなくなり絶望の道をたどり、自分自身を信ずることができないということはどうも生きていけないということです。

親鸞聖人の教えはこのような我々に、大きな光となります。これらのことは、自分で自分のことが分からないために起こってくる悲劇です。自分のことが正しく見えなくなると違う世界が広がります。

自分のことは自分が一番知っているように思いますが、そうではありません。相手のことは手に取るように分かるのですが、自分ほど分からないものはないのです。私は欲エゴで生きています。自分さえよければいいというエゴの根性です。エゴの根性によって自分を正しく見ることができないのです。

そんな私が私に問題ありと、もし気づくことがあったとしたら、エゴの心が百八十度ひっくり返ったことになります。いままで自分が間違っていると思ったことありません。そんな私が自分に問題ありと自分が見えてくるのは、それを知らせる世界に接したからです。それが仏様の世界なのです。そして、そこに純粹な「信ずる心」が蘇るのです。それは仏様の心そのものなのです。

お金しか信ずることのできなかつた私が、仏様の世界に目覚め、純粹な「信ずる心」を回復したならば、どんなことが私に起ころうと受け止め生きていく力をいただくことができず、自分自身を信ずることができ、地獄から救われます。

親鸞聖人の教えの一旦ですが、とても大切なことのように思えます。報恩講をお勤めさせていただく意味が少し見えてくるとありがたいです。

(念仏申してお浄土に生まれるとはこのようなことです) 最後までお読みくださってありがとうございます。

注… 仏様とは死んだ人ではありません